



糸方^{つむぐ}く

～みんなが元気に みんなが幸せに～

No.85 平成30年 2月28日
南教育事務所 社会教育担当

特色ある取組を紹介します。～今年度の事業訪問から～

南教育事務所では、子どもたちや保護者を対象にした市町村の事業を訪問しています。秋から冬にかけて訪問した事業の様子を紹介します。

湯沢市家庭教育支援チーム「^{わわつと}輪和人」

湯沢市には2つの家庭教育支援チームがあり、それぞれが特色ある取組を進めています。

その一つである「輪和人」が、11月29日（水）に湯沢市立皆瀬小学校で「お茶っこサロン」を開設しました。この日は皆瀬小学校のPTA授業参観日で、授業の合間などに来室する保護者に憩いの場を提供していました。多いときには20名を超える保護者が来室し、校長先生やPTA会長さんも一緒になって、子どもの話や学校の話などで盛り上がっていました。

コーナーづくりとして、湯沢図書館のお薦めの本を出張展示しており、家庭教育支援と読書活動の推進の両面に関わる取組で、他市町村の今後の活動に参考となる事業でした。



【お茶っこサロンの様子】



【湯沢図書館の出張展示】

仙北市田沢湖図書館「Xmas のいちにち」

雪の舞う12月16日（土）の田沢湖図書館には、温かい笑顔があふれました。年間を通じて、市民の読書への興味・関心に刺激を与えている田沢湖図書館ですが、この日も近隣の放課後児童クラブの子どもたちや親子に素敵な「いちにち」をプレゼントしてくれました。

田沢湖生保内地区で活動している、読み聞かせ団体「アトリエ」のみなさんの読み聞かせや、秋田県の読み聞かせの第一人者である「グループかぜ」代表の谷京子さんによる、おはなしコンサートが行われ、田沢湖図書館には一足早くクリスマスが訪れました。

この他にも田沢湖図書館では、休館日に乳幼児をもつ親御さんに図書館を開放するなど、特色ある取組が行われています。



【谷さんのおはなしコンサート】

湯沢市「冬休み子どもゆざわ学」

「子どもゆざわ学」は、ジオスタ☆ゆざわの利活用を図るため、ジオパーク推進班と連携し、主に市内小学生とその保護者を対象に、体験活動や体験学習を通して郷土の歴史文化を学ぶ機会を提供し、郷土愛の醸成を図る、参加型の企画展として開催されています。今回は、1月11日（木）に、湯沢市高松地区センターで行われました。

体験学習の「湯沢歴史たんけん」では、湯沢市の清涼寺の高橋大匡住職から、江戸時代の湯沢市中心部を描いた「湯澤繪図」を基に昔と今の違いについての説明がありました。大きな絵図でしたが、上に透明な保護シートを重ね、その上に子どもたちが乗って自由に絵図を眺めることができたり、現在の建物が絵図のどこに当たるのかをクイズにして考えさせたりと、子どもの興味をひく工夫がありました。「大堰は雄物川が流れていた跡で昔からあった」「お寺が外側に多く配置されているのは、戦があった時に基地にして城まで来られないようにするため」「侍と町人は別れて住んでいた」「役人も身分で別れて住んでいた」など、子どもたちは感心しながら郷土の歴史を学んでいました。



【「湯沢歴史たんけん」の様子】

美郷町「わくわくウインタースクール」

美郷町では、夏・冬の長期休業中に放課後子ども教室を開催しています。今年度の冬休み中には3つの教室が行われ、1月12日（金）に美郷町南ふれあい館で開催された「わくわくウインタースクール」を訪問しました。

今回は、「パステル 和 アートを楽しもう！」と題して、インストラクターである高橋みどりさんをお迎えしていました。参加者は、美郷町内の小学校1年生から4年生までの児童29名と保護者4名で、パステルを削ったり、パステルの粉を指で紙面に色付けしたりして、楽しみながら作品作りに取り組んでいました。参加児童は、「楽しい」「思ったよりも簡単だった」「上手にできた」と嬉しそうに質問に答えていて、主催側の教室内容や講師の人選、教室開催までの準備のよさによるものだと感じました。

教室の最後にはアンケートを実施して、事業を開催することで終わらず、参加者の声を聞いて次の事業に生かす取組が行われていました。

今回は3市町の紹介となりましたが、次年度も各市町村の取組を肌で感じ、県南地区の生涯学習・社会教育に関する情報を学校教育現場や全県へ発信していきたいと考えております。



【真剣に説明を聞く参加者】



【作品作りを楽しむ参加者】

社会教育アドバイザーコラム

学び直しは面白い

社会教育アドバイザー 鈴木美津子



図書館で目にとまった一冊の新刊本。「兼好さんとお茶をいっぷく」というタイトルに惹きつけられ、思わず手に取ってしまいました。吉田兼好といえば「徒然草」。この随筆の世界にふれるのは、実に40数年ぶりです。

この本は、作者が直接話しかけているような語り口で書かれているため、原文よりも分かりやすく、何度も読み返したくなります。読み進めていくうちに脳裏に浮かんできたのは、高校時代の思い出です。古文の授業では、有名作品の冒頭部分を暗唱する場があったため、必死で覚えたこと。受験対策として現代訳した「徒然草」を、担当の先生が毎回添削してくださったこと。大学受験ではその「徒然草」が出題され、思わず顔がほころんだこと等、懐かしさもこみ上げてきました。



現代のことばで語りかけてくる「徒然草」のメッセージは、とても身近に感じられます。700年を経ても深く心に響いてくる数々のことば。物事を鋭くも温かいまなざしで見つめる作者の感性。歳を重ねた今だからこそ共感できる内容もあり、人生の生き方を学んでいる気持ちになりました。

まもなく人生100年時代を迎えます。だからこそ、大人が学び直す機会が大切です。いつでもどこでも学べる環境をつくるのが求められているのでしょうか。学び直しは実に面白い。慌ただしく過ぎていく毎日ですが、新たな気付きを求めながら心弾む時を過ごしたいものです。まさに、「存命の喜び 日々に楽しまざらんや」。

おめでとうございます！

「中仙小学校 地域学校協働本部」
平成29年度「地域学校協働活動」
推進に係る文部科学大臣表彰 受賞！

今年度は、大仙市立中仙小学校の地域学校協働本部が受賞しました。

平成21年度に「ガ・ボラ」として立ち上げられた学校支援地域本部は、核となるコーディネーターの存在や、豊富な人材や伝統を大切にする地域性、諸団体との連携という、持続可能な運営体制の下、「八乙女山の桜を守る活動」「ジャンボウさぎの飼育」「表装教室」等、特色ある活動を進めてこられました。



～ 刊行物の御案内 ～

「学校と地域の連携・協働」 活動事例集

「地域学校協働活動」をより一層推進していくための資料になるよう発行しました。事例集は、市町村・各学校に配布し、南教育事務所ウェブサイトでも公開します。

執筆への御協力に感謝するとともに、今後の活用をお願いします。

